



理事長就任挨拶

峰ヶ丘同窓会理事長
雑草管理教育研究センター

小笠原 勝 (農昭53卒)

この度、農学部峰ヶ丘同窓会理事長を仰せつかりました昭和53年農学科卒の小笠原でございます。私の生まれた1956年は「もはや戦後は終わった」と経済白書が戦後復興の終焉を高らかに宣言した年でもありました。石油ショックやバブル崩壊など多少の波風はありましたが、社会は総じて活気に満ちていたような気がします。年配の方なら、皆さんご存知かと思いますがクレージーキャッツの「ウンジャラゲ」という歌に「木曜日はモーリモリ、金曜日はキンキラキン」という台詞があります。まさにそのノリで生きてきたように思います。ところが、2011年3月11日14時46分にマグニチュード9.0の巨大地震とそれに伴う津波が発生しました。研究室の書棚から本が崩れ落ち、ようやく

のことで家に帰ってテレビをつければ、あの信じ難い大津波の光景でした。人生後半になってのまさかの驚天動地の出来事でした。そして今般の新型コロナです。全国津々浦々、老若男女がマスクで顔を覆い、非常事態宣言だの移動制限だの、誰がこの異常な有様を想像したでしょうか。

新型コロナによって、大学はもとよりさまざま場面で社会活動が大きな制約を受けましたが、この大禍の最大の被災者は誰かといえば、それは将来の弾みをつけなければならない大切な時期を無為に過ごさなければならなかった若者に違いありません。

昨年度、同窓会は学生会員に対して緊急的な経済支援を行ないましたが、さらなる支援が必要になるやも知れません。また、来年には、農学部創立100周年という本学開闢以来の最大のイベントが控えております。同窓会の役割は会員相互の親睦と会員及び母校への支援に他なりません。会員の皆様方からの忌憚のないご意見を拝聴しながら、同窓会運営に微力ながら尽くしていく所存ですので、一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます、ご挨拶に代えさせていただきます。

峰ヶ丘同窓会の新型コロナ学生支援活動について

2020年1月に世界保健機関(WHO)が新型コロナウイルスの世界的な感染爆発(パンデミック)を宣言して以来、もう少しでまる2年が経とうとしております。この間、非常事態宣言が幾度か出され、その都度、さまざまな場面で経済活動は停滞を余儀なくされました。生活費や学費をアルバイトで賄っている多くの学生もこの限りではありませんでした。そこで新型コロナの煽りを受けて困窮状況に陥った学生に対して、峰ヶ丘同窓会は緊急的な支援を行うことにいたしました。

具体的には、昨年(2020年)は、46名の農学部学生に対して総額260万円余りの支援を行ったほか、10月にも総額200万円を農学部へコロナ支援金として寄付致しました。また、これまでに3名の学生に対して学費支援を行いました。さらに、今年度は(2021年)、新たな学生

支援策として、大学の農場で取れた米(ゆうだい21)の無料配布(2kg、1000名分)を計画しております。

支援の多寡を他の同窓会と比較するべきではないかも知れませんが、峰ヶ丘同窓会の支援が金額的にも内容的にも群を抜いていることは衆目の一致するところであり、同窓会の存在意義を遺憾なくアピールできたのではないかと考えております。

峰ヶ丘同窓会の財務状況が学生数の減少によって、厳しい状況にあるにもかかわらず、会員の皆様の理解と協力があつたればこそ、このような手厚い支援ができたのであり、改めて皆様方に深く感謝申し上げます次第です。ここに1日も早い新型コロナ収束を祈願しながら、これまで実施した峰ヶ丘同窓会の新型コロナ学生支援事業を報告いたします。(文責 小笠原 勝)

クラス会 (1クラス会)

全国のクラス会のご紹介です。毎年たくさんのクラス会が催され、ご寄稿いただいています。紙面の都合上、写真は1枚、原稿は800字までとさせていただきます。何卒ご協力のほどお願い致します。

1 農化8回生(昭35年卒) クラス会

日時: 2020年10月29日木曜(12~15時)

場所: さいたま市

参加者: (写真向かって左から) 野中・内田・塚本・村山・本澤・植平・神山・新関

かつては、フラスコ会と称して5~10年置きでしたが、卒業して60年が経ち余生少なくなるにつれ毎年開催しています。今回は、GoToクラス会と称して立地的に便利な浦和駅近くの中野料理店です。コロナ禍による巣ごもりで食欲がなくなっていると言いながらも、円形テーブルを囲んで学生時代の仲間8名とのランチは全員完食しました。



前回は宇大70周年に合わせて開催し、来年(2021年)は10月29日金曜に決めましたが、農学部100周年の再来年も開催したいと思います。(文責: 本澤)